別記様式

令和３年度学校評価報告書

令和４年３月２５日

北海道教育委員会教育長　様

北海道滝川高等学校長　　古　川　栄　一　印

次のとおり平成３年度の学校評価について報告します。

１　本年度の重点目標

（１）全道・全国に通じる進学校としての確立を進める
（２）地域の信頼に応え、社会の有為な形成者としての自覚を持った生徒の育成を進める
（３）生徒理解の基づく教育相談（ガイダンス機能・カウンセリング機能）を充実させる
（４）管内唯一の理数科設置校として、SSH事業の取組を通して学校力の向上を図る
（５）学校の教育活動に関する効果的な情報の発信に努め、選ばれる学校づくりを進める

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
総　　務	・新型コロナウイルスの影響から、昨年に引き続きＰＴＡに係る活動は限定的（学校祭の記録写真撮影等）になった。 ・広報については、特に昨年度からの単位制の導入について、新たなパンフレットを作成し、体験入学会や中学校で説明したことにより、中学校および中学生やその保護者から一定の理解を得られた。	・今年もPTA活動が制限されたことは、やむを得ない状況である。 ・単位制について、今年度の学校説明会等での中学校側への説明等により、出願者の大幅な増加が見られた。滝川高校への信頼と、進学型単位制へのさらなる理解・期待があることの表れと思われる。
改善方策	・ＰＴＡ活動については、次年度も状況が大きく改善されることは考えにくいが、こうした状況下でも保護者と連携し、生徒の教育活動を支援する方法を検討する必要がある。 また、広報については、単位制やＳＳＨ等への取組を含めた教育活動の成果を今後もさらに積極的に発信していく必要がある。	
学習指導	・単位制導入、新学習指導要領に対応したカリキュラムの実施についてスムーズなスタートが切れた。 ・授業改善に向けた研修について、教員間での自主セミナーの定期的な開催により、観点別評価をはじめとした教員同士の理解が促進された。	・保護者から教員への評価は平均値として決して高くないが、今後も、観点別評価の研修を重ねるなど、より一層の教員の研鑽を期待する。
改善方策	・授業の質の向上、課題研究の充実、評価のあり方の研究等について今後も研修を重ねていく。BYODや観点別評価など、昨今の学校課題に準じたテーマ設定を行う等、教員の参加意欲の向上を図っていく必要がある。	
生徒指導	・新型コロナウイルスの影響により、生徒会行事等の縮小はあったが、その中でも生徒会が主体的に創意工夫を凝らした活動を企画し、実行したことは良かった。	・継続的な教育相談を重ねるなど、生徒一人ひとりに寄り添う指導がなされており素晴らしい。 ・コロナにより、生徒の心に大きな影響を及ぼさなかったかなど、心配されることが多い。今後とも不登校や退学につながらぬよう、心のケアを行ってほしい。
改善方策	・これまでも教育相談やカウンセリングを必要とする生徒への対応を進めてきたが、コロナ禍における生活の変化・制限等が続くことから、次年度以降も、より一層の取組の充実を図る。	

<table>
<tr><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>進路指導</td><td>・例年にも増して、３年生の進路意識が高く、積極的な講習や模擬試験への取り組みがなされた。</td><td>・保護者からも、講習（放課後、休日、長期休業等）や模擬試験の事前・事後の指導など、十分な指導が行われている、と聞くことがある。引き続き、熱心に指導していただきたい。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">・学習すべき内容について、授業や講習で取り組むことで、生徒の学力について一定のの保障がなされた。しかし、学習量だけで育むことのできない、課題をとらえて、多角的に考える力や、自己を表現する力など、今後益々、進路実現に求められる資質・能力の育成にも十分に目を向ける進路指導を充実させていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>ＳＳＨ・
理数科</td><td>・地域巡検や大学との連携事業など、コロナ禍により校外活動は制限され、期待していた成果が十分には得られなかった。その一方で、新たな取組の発案や、クロスカリキュラムの計画、探究活動の方策や評価等に取り組むことができた。
・今年度実施された中間評価においては、高い評価をいただいた。引き続き、研究開発課題に積極的に取り組むと共に、３期目を標榜した活動を展開していく。</td><td>・ＳＳＨの取組については地域において徐々に理解が深まっている。進学重視型単位制であると主に、ＳＳＨ校として課題研究にしっかり取り組む学校であるというアピールがさらに必要である。
・ＳＳＨ中間評価の高評価の原因が、教員の全校体制であることは素晴らしく、引き続きその体制を維持して欲しい。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">・これまでのＳＳＨでの取組の成果として、普通科・理数科共に、「探究活動」をさらに計画的に実施し深化させていく必要がある。全職員が生徒とともに考えることができる授業として、互いに主体的な姿勢で臨めるよう、体制づくりを行うと共に、北空知地区の探究活動の拠点として、他の機関等とも連携を深めていく。</td></tr>
<tr><td>いじめ防止</td><td>・いじめ防止対策委員会を中心とし、未然防止に向けた、いじめに関する学習会を実施することができた。</td><td>・いじめの未然防止・早期発見の重要性に対する意見が出された。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">・次年度以降も定期的な委員会の開催と研修により、職員の意識を高めるとともに、教育相談（面談）の充実・改善を図る。</td></tr>
<tr><td>公表方法</td><td colspan="2">・学校だよりやＷｅｂページに掲載するとともに、学校評議員会、ＰＴＡ役員会にて口頭で説明する。</td></tr>
</table>

３　添付資料

（１）令和３年度自己評価書　１部

（２）保護者アンケート　１部